

2018年4月

昔話法廷 視点を変えた御伽噺

真鍋由比

【昔話法廷】はNHKのテレビ番組だったようです。知らずにこの本を読んでわりと感動してしまいました。

日本の裁判員が昔話のエピソードに出てくる登場人物が有罪か無罪か議論して裁く設定なのですが、『三匹のこぶた』はイギリスの絵本でも有名ですね。わらの家も木の家も狼を避けなかった。レンガの家を建てた一番下の豚は、実はおおかみを計画的に殺そうとしていた？三人兄弟のなかでは一番賢い弟であることは間違いなし。兄が殺されたからといてわざわざおびき出したなら殺人罪になる。いや、おそってくる狼が怖くて自分が殺されそうになったからやむを得ず殺した「正当防衛」で無罪だ。と弁護側の主張。しかしそのとき狼の母が死んでいくわが子の状態を窓の外から見ていたのでした…。原作に少々設定が追加されていますが、「悪い狼をやっつけてよかったね」というだけの話ではなくなっています。人間って誰だっているいろいろな面を持っていて一言で言い表せたりしない。立場が変わると受ける印象や気持ちがこんなにも変わるのかと感心しました。



この本の優れているところは、裁判員の意見を載せてはいますが、判決までは書かれていません。みなさんがどう考えるのか。有罪？無罪？どうして。世の中には質問の答えがよいいされているものばかりではありません。自分で考えなくては。



グリム童話の『白雪姫』の継母、王妃様も裁判にかけられます。狩人に白雪姫を城から連れ出して殺せと命じた王妃。でも狩人は白雪姫に同情して殺せなかった。それを白雪姫に言ってしまう。そして王妃が魔女のおばあさんに変装して毒りんごを白雪姫に食べさせたということで裁判になった。

魔女に変装したとされるケープや付け鼻は王妃の指紋がついていた。けれど仮想パーティー用に入手したという。肝心のりんごには王妃の指紋はついていなかった。そして白雪姫は王妃が自分を殺そうとしていることを知っていた。初めてそこを通りかかった王子が白雪姫を助けたとのことだけど、どうやら旧知の仲らしい。この事件はもしかしたら白雪姫の計画？はかなげな美女はじつはしたたか？

第2シーズンにはイソップの『アリとキリギリス』もできます。冬になってたべものを蓄えていないキリギリスが親友のアリを頼って、やってきます。けれど自分の家族の分まで手一杯だからと断られてしまい、次の日の昼、キリギリスは自宅で餓死した状態で見つかりました。アリは「保護責任者遺棄致死罪」で訴えられています。法律上、親や兄弟姉妹だけでなく、親友でも保護責任を問われることがあるそうです。これは知らなかった。

家族10人を養わなくてはならなかったアリ。バイオリンのうまいキリギリスは大好きなしんゆうだったけど、家族を優先すれば食糧はわけなくも当たり前？でも新しい事実が見つかります。親友であつたあのバイオリニストだったキリギリス。でもどうしても許せない言葉を言われたアリは、本当はどうしたかったのか…。



いろいろな考え方があってどんな考え方をするのかはあなたの自由です。でももしかしたら近い将来、裁判員裁判で、人の未来を左右することになるかもしれない。できればいろいろな考え方を覚えておいたほうがより納得のいく判断が下せるかもしれませんね。